SERVICE CLUB TO THE YMCA

Nagoya GRAMPUS

名古屋グランパス ワイズメンズ クラブ
NAGOYA YMCA5-2 KAMIMAEZU2 NAKAKU NAGOYA 460 JAPAN

国際会長標語	「奉仕による成長」
ｱｼﾞｱ会長標語	「無私の奉仕で輝く未来へ」
西日本区理事標語	「ベクトルを合わせ、地域と共に活動を」
中部部長標語	「ワイズライフを楽しみましょう　例会を潤いの場に・・・」
クラブ会長標語	「Lets get together and have fun」

2003年5月号

＜今月の聖句＞

支えられ、結び合わされ、神に育てられて成長してゆく

［コロサイの信徒への手紙　２章１９節］

例会出欠・遅刻の連絡は「ご出欠連絡書」によりお願いします

2003年５月例会ご案内

◎第一例会

と　き　：5月8日（木）
ところ　：名古屋ＹＭＣＡ
時　間　：PM７：００～
卓　話　「ＹＭＣＡの現状と今後」
ドライバー　井川

新任名古屋YMCA総主事　加藤　明宏氏によるYMCAの現状と今後ワイズに対する希望。

出欠は必ずドライバーまで連絡してください。

◎第二例会

と　き　：5月22日（木）
ところ　：名古屋ＹＭＣＡ
時　間　：詳細は第一例会にて

◎その他

たけのこ狩り
と　き　：5月４日（日）
ところ　：三井竹林場

あまごの会
と　き　：５月下旬
ところ　：詳細は別途

4月例会	例会出席状況				B Fポイント		クラブファンド（4月）	
	在席者	18名	第1例会	16名	当月・切手		ニコBOXノート	
	例会出席者	18名	第2例会	15名	当月・現金		感謝ファンド	
	当月出席率	72.2%	部会他	名	累計		累計	

“TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT”
＝強い義務感を持とう。義務はすべての権利を伴う＝

山田牧場スキー例会

今年もベストコンデション春スキー

吉田　　正

北アルプス一望の第二リフト頂上

年度最後のスキーを恒例の南志賀高原奥山田温泉山田牧場スキー場で開催。
参加メンバーは荒川君と坂口君、吉田正君とそれぞれファミリーと３組のゲスト合わせ計１５名と少ない参加者でしたが、内容は充実していました。

まずはお酒、吉田ゑま子さん差し入れの高価なワイン？から地酒「天領誉」ビール、チュウハイと飲み続けた高田、臼井奥様。夕食後奥様と朝食まで部屋に閉じこもった荒川夫妻。
おばあちゃんや奥様をほったらかしに山田温泉まで甥っ子とスキーツアーに行った坂口君。
またまたスキー場感謝祭では久しぶりのミカン拾いでのたくさんの景品をゲット。

巨大な人口つらら

肝心のスキーは天候や雪質に恵まれベストコンデションで今シーズンの最後を楽しむことができました。

みかんひろいゲームで商品ゲット

今回はYMCAスキーキャンプと一緒の時期で武居スタッフがデレクターとして指導にあたっておりキャンパー、リーダー合わせ４０名程でしたが久しぶりに「ごはんの歌」を唄い昔をなつかしく思いました。
来シーズンの予定は以下のとおりです。

・１月１０日（土）１１日（日）
　　長野県大町温泉爺ガ岳スキー場
・３月２７日（土）２８日（日）
　　長野県奥山田温泉山田牧場スキー場

いずれも予約済み、いまから年間計画に入れてください。

坂口ママも元気です

サンドル設立２０周年記念パーティー訪問記

その２

副題［天国と地獄］　　三井　秀和

前回公式訪問したのは２０００年１０月からはや三年、サンドルクラブも設立２０年目となり、今回華やかな設立記念パーティーに佐藤会長以下メンバー７人、メネット２人の九人での参加をしてきました。
私事ですが、ここ何年か家族ともども韓国には

何回かトランジットや会社関係で訪問したりしていますがまだ現在も財政的に厳しい部分もあると思われますが、近年の危機的なアジアを襲った金融危機も乗り越え、ここ三年ほど韓国国内の飛躍的な経済発展の結果、各都市のインフラが進み韓国の人たちの笑顔がよく見受けられるようになったと思います。

インチョン空港にて

ただ、サンドルクラブも一時は６０名余のメンバーを有していたが現在は４０人を切っているとのことで、当初ＩＢＣ締結時頃お世話になった朴氏、ユン氏らの何人かの人がリストラ、業績悪化や破綻して海外移住され退部していたのは少し寂しい思いがありました。

現在のサンドルクラブの主だったメンバーは会社が大きくなり多角経営に成功し、工場を新築したりそれなりに好調な模様でしたが如何せん年は中年の域となって、死ぬほどゴルフ大好きの池氏などは腕の筋を痛め半年ほどプレーをしてなくて寂しそうであったり、またチョン氏は肥満ぎみで食事制限をしたり年にはやはり勝てないようでした。

マリオットでの長い夜

今回の設立パーティーには昨年サンドルがＩＢＣ締結した台湾のクラブから大挙して２０名ほど駆けつけていましたが、サンドルクラブは参加人数がそれより少ないわれわれグランパスに対してそれ以上に誠意がこもったお世話をしていただいたと思います。

今までのサンドルとの数度の交流するに当たってわれわれグランパスもサンドルも建前の表面的な意識での付き会いの感があったと思いますが、今回のサンドルメンバーとの交流で本当の兄弟クラブの関係になったと思うのは私だけではないと思います。

今後もより親密な交流を続け、ひいては当グランパスクラブの活性化に寄与することになればと思った次第です。

今回もチョンさんにはお世話になりました

参考までにサンドル関連のメールアドレス等をご連絡いたします。

"クラブ事務所" <shin0jja@hanmail.net>

Dr. Yang's Web address; ＩＢＣ担当

HW699611@hitel.net

クラブＨＰはありますがウイルス感染していますので、改善後にお知らせします。

尚、副題の件ですが、今まで体験の記憶が無かったことですが韓国入国後15年悩まされている花粉症が全くなくなり快適で天国のようでしたが、帰国後いわゆるリバウンドでこれも経験したことがないほど強烈な症状がでて地獄の苦しみを三日ほど味わいました。

週末は毎週韓国へ避難したい気分です。

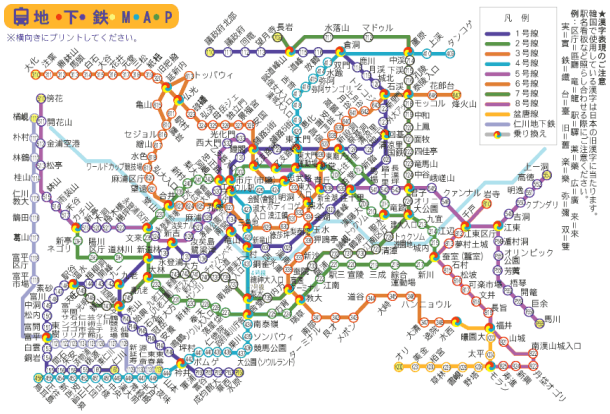
チョンさんのメネットと YMCA スタッフ

「自分のことは自分でやりましょう」

荒川　恭次

サンドルクラブ２０周年記念例会のことはメンバー各位が紹介しましたので、私はその周辺の事柄、特に今回は自力移動が印象に残ったので、そのあたりを一言報告します。

これまでの韓国訪問は主にツアー形式で観光バスなどでガイドさんに案内していただきましたが、今回は自力移動に主眼を置き、バス・地下鉄にて各地に行きました。もちろん迷子防止の国際携帯電話持参です。



ソウル地下鉄路線図

地下鉄は不安でした。ハングル読めないどうしよう。しかしご安心あれ。全ての駅に番号が付いていてハングル読めなくても番号を追っていけば乗り換えもなんのその、ちゃんと目的地にいけるのです。さすが国際都市。おまけにどこまで乗っても 60 円～70 円均一料金。これがほんとの公共料金。名古屋の地下鉄はどうでしょうか。あなたはきっと首を傾げるでしょう。

番号をめざせば目的地に行けます。

さて、初日は通訳をお願いした立松さんの後ろにくっ付いての移動でしたが、「もう大丈夫ですね」のやさしい一言で２日目は地図片手に右だ左だとソウルの懐に飛び込みました。今回私は一つの目的を持っていました。事前にインターネットで調べておいたイテウォンにある店に行くことです。旅は何か目的がないとつまらない。日本では高価で手が出ない品物が韓国の中でもイテウォンのその店ならば値打ちに手に入るのです。12 時開店を知らず 10 時着となり、持参の携帯電話で主人をむりやり呼び寄せ目的を果たすことができました。これでソウル市内なら何とか一人歩きできるかなと自信がついた次第です。

立松さんは今年いっぱい韓国滞在予定ですので今がチャンスです。訪韓する際はご一報入れていただければ案内してくれるそうです。事前調査は http://www.seoulnavi.com/ で行ってください。

私の目的地

また韓国の魅力発見
－韓国訪問記－

服部庄三

３月６日夕刻、他のメンバーより１日早く私達夫婦は韓国へ向け旅立ちました。過去何回もサンドルを訪ずれ、慣れた訪問地とはいえ、今回は２日後のサンドルとの再会まで、我々グランパスだけでの行動。しかも明日夕刻グランパスの面々が到着するまで私達だけの行動。正直不安の混じった期待で一杯です。

名古屋を発って１時間半、仁川空港は今回初めて。暗くなっての到着でしたが滑走路のライトが延々と続き、その広さにビックリ。ターミナルもデカイデカイ。無事通関して、早速ソウルへ向かうリムジンバスに乗り込む。事前にインターネットで調べておいたので、ホテル行きのバスはすぐわかった。すごいコンピューターの時代です。高速を飛ばして約４０分でホテルへ、今回ソウルで泊まったマリオット・ソウルは、２０００年に出来たばかりのすばらしいホテルで、阿部ちゃんの

紹介で大変お値打ちに泊まることができました。感謝です。

翌日は早速市内散策。実は昨年１０周年例会の折、通訳をお願いした立松さんが現在ソウルに在住、案内を買って出てくれました。これで一安心。早速スケジュールを決め出発。今回のひとつめの楽しみが地下鉄です。地下鉄火災事故のすぐ後だけに、警察官がチラホラ立っています。逆に安心です。まずはキップ、市内のほとんど６００ウォンで乗れます、日本円で６０円の安さです。駅もすべて順番に番号がついています。例えば２号線は２０１、２０２……、３号線は３０１、３０２……、という具合です。乗っていてもあといくつ目とすぐわかります。日本も見習わなくては…。もう１つ、携帯電話が駅と駅の間でも通じます。つまりどこでも通じます。これも便利です。良いか悪いか別として、電車内の携帯を規制している日本とはお国柄も違いますね。

地下鉄にて

インサドンへ向かう。まず一度行きたかった楽器屋さんへ、ここはビルの中に何十軒、いや百軒以上の楽器屋が集まったところで、ちょうどアメ横ビルを大きくしたようなものです。ここで立松さんと家内の迷惑も返り見ないで、１軒１軒延々と見てまわりました。でもビルを出る時に手に楽器を持っていなかったことは、家内にとってはせめてもの救いだったようです。その後周辺のお店でおみやげなど買い、昼食へ。一般の人達が行く所にしようと、路地を入った小さな食堂に恐る恐る入りました。入った途端に我々が日本人と分かるらしく、中でお酒を飲んでいたおじさんに歓待され、一変に和やかな雰囲気に。常連客も一緒に「大阪に行ったことがある」とか、「日本語も少しできるよ」とか、身振り手振りも交えて楽しい会話が飛び交いました。料理も定食の丼みたいなもの（名前は忘れました）を何品か注文。恒例のサービスのキムチもおいしく（韓国ではキムチはサービスです）、味も店の雰囲気も十分満足しました。いまだにあのおじさんはお客だったのか、店の主人だったのかわかりません。

つぎにお茶にしようと、韓国の薬膳茶のお店に。有名なお店らしくいっぱいでしたが、何とか席を

みつけてほっと。古い韓国の家を改装した、シックな雰囲気で若者にも人気があるようで、あちこちにカップルが。飲んだ中では、やはり「ゆず茶」が一番口に合いおいしかったです。（韓国を発つ時、おみやげに買い込みました。でもビン入りで残念ながら一本割れてしまいました。）ここでひとつびっくりは、中にスナック菓子を持ち込んで食べている人がいました。あとで聞いたら韓国では、レストランなどでも持ち込みＯＫだそうです。これも所かわればです。もうひとつインサドンのおみやげは「クルタレ」。屋台で売っているのですが、コーンスターチと蜂蜜（一部水飴も入っていると思いますが）を混ぜ。輪をつくり、伸ばしながら何回も繰り返して輪をつくると極細の糸の固まりになります。口に入れると絹のまゆを食べているような食感がします。これも後日談で、日本に帰って箱を開けたら蝶になっていましたと言いたいところですが、硬く固まってただの飴のようになってしまっていました。韓国でこれを見つけたら、その場で食べるだけにしましょう。

ジョンさんと服部メネット

夕方近く、日本からの第２陣がホテルに到着する時刻にあわせ、帰路につきました。これ以後の旅行記は他の人の文章にゆずりますが、今回の訪問では今までと違ったふれあいができ、韓国のまた違った一面に触れることができました。ますます韓国の魅力にはまっている今日このごろです。

紙面の都合で各報告は６月号でとします。